

子どもを守る

連日ニュースなどで報じられる子どもをねらった事件。県内でも、子どもや女性をねらったつきまといや声かけなどの不審者情報が後を絶ちません。未来を担う子どもたちを守るために、今、何が求められているのでしょうか。



始動 どうすれば 子どもを守れるか

松前町は県内で最も小さな行政区です。今から2年半前、このまちで、松前、北伊予、岡田の3校区が一体となって、子どもたちを自分たちの手で守る活動が始まりました。それが「スクールガードまさき」です。

スクールガードまさきは、松前校区で活躍していたスクールガードが輪を広げ、現在、松前町全域の安全のため、56台の青パト隊、500人を越えるボランティアで活動している自主防犯組織です。立ち上げの中心となった、当時の松前交番所長、森さんにお話を伺いました。

VOICE

01

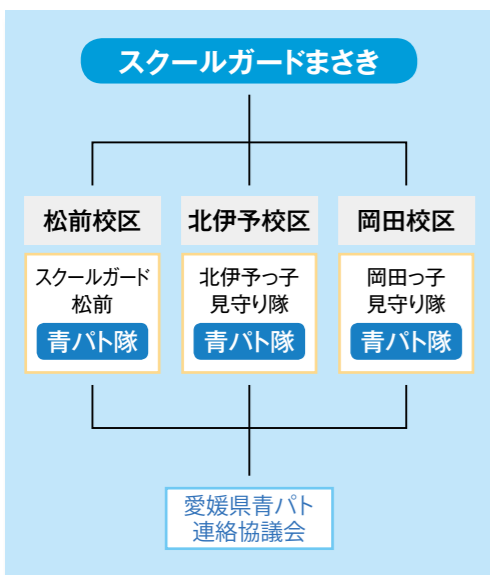


松前交番所長(当時)
(現) 石井交番所長
警部補 森 哲生さん

「全国で犯罪が多発していたときでした。松前町でも何があるかわからない。まちを守るために地域をパトロールできないかと考えました。警察だけでは人数が足りない。そこで、当時の松前小学校の校長に相談しました。そして松前小学校PTAに全面協力をしていただき、平成18年3月に発足の前身「スクールガード松前」です。

スクールガードとしてまず何をするか。買い物するときでもいいし、庭の手入れをするときでもいい。周りに少し目を向け、人の目があ

●スクールガードまさき組織図



ることをアピールすることをお願いしました。誰がどこでパトロールしているか分からないというのは、防犯に効果的です。もちろん、パトロールしていることをアピールすることも重要です。そこで次に目を向けたのが青パト隊です。当時の防犯相談所長に組織結成をお願いし、平成18年7月に県下で2番目となる青パト隊ができました。この青パト隊は松前校区だけで構成していました。子どもを守るのに、松前校区だけではおかし、松前町全体で守ろう。そう思って松前校区が軌道に乗ったときに北伊予と岡田に声をかけました。まち全体が協力して、広く活動できるようと、この3校区をとりまとめる組織のトップは松前町に

お願いしました。平成19年7月、教育長を代表として松前町全体の自主防犯組織「スクールガードまさき」が発足したのです。松前町は、まちがまとまっていて、地域のつながりがあつて、動きの速いまちです。ですからこれだけ大きな組織ができたんだと思います。組織は立ちあげてからが大切です。変化もないし、何も起らないだろうと安心しないでください。皆さんの活動があるから何もないのです。防犯は止まってはいけない活動です。また、頑張る活動は長続きしません。頑張らなくていいので、自分ができる時間に行えることを続け、さらに安全で安心なまちになることを期待しています」

●声かけなどの被害(平成21年中の警察署別の認知状況)

区分	伊予	松山東	松山西	松山南	久万高原	四国中央	新居浜	西条	西条西	今治	伯方	大洲	八幡浜	西予	宇和島	愛南	合計
声かけ	5	23	10	9	3	5	12	17	10	20	2	4	5	1	3	1	130
つきまとい	10	7	7	5	0	9	3	4	1	10	0	0	0	1	3	0	60
ちかん	10	37	4	5	0	4	11	17	2	9	0	0	2	0	2	0	103
のぞき・盗撮	1	8	5	5	0	1	2	4	0	1	0	0	3	0	4	0	34
身体露出	7	38	16	11	0	5	10	7	2	9	0	2	4	5	1	5	122
その他(不審者)	6	49	9	13	0	7	4	11	11	10	0	1	4	4	4	1	134
署計	39	162	51	48	3	31	42	60	26	59	2	7	18	11	17	7	583

出典:「声かけ事案等認知状況」(愛媛県警察本部)

抑止 犯罪を防ぐ 青い光

VOICE 02 スクールガード 松前



発足以来、定期パトロールや地区の行事でも活躍しているスクールガード松前。冬休み期間中は、青少年補導委員、警察協働員、防犯相談所長、交通安全指導員などが協力し、毎日分担任してパトロールしました。義農公園には連絡箱があり、松前交番には連絡ノートがあり、パトロールの都度状況を記録して警察と連携をとります。

情報交換
毎月5日は筒井公民館に集まり、地区ごとに近況報告をします。交番所長のアドバイスや、先生から学校での児童生徒の様子を聞き、情報を共有しています。

コメント
松前交番所長 「地域パトロールは警察だけでは人員に限りがあり

12月25日役場庁舎前。町内で活躍中の青パト隊が集合し、一斉パトロールに出発しました。スクールガードまさきには、松前15人、北伊予23人、岡田11人、松前町商工会青年部7人、合計4団体56人の青パト隊員がいます。北伊予青パト隊長の白石浩輔さんは「みんなよそへ行くときにも回転灯をつけています。消し忘れではなく、常に防犯を意識しているからです。ピンポンダッシュの被害があったとき、青パトに相談があり、警察と協力して防ぐ体制を作ったことや、パトロール中にちかん行為を見つけ即対応できたこともありました。地域の人が青パトの光は安心の光だと言ってくれます」と話します。青パト隊は、大きな犯罪抑止効果があるとともに、地域住民には「見守られている」という安心感を与えています。

ります。地域を熟知した皆さんの活動は効果てき面です」

先生 「皆さんのおかげで子どもたちは元気に活動しています」
メンバー 「みんなで力を合わせて地域の安全を守ります」「情報交換の場で、嫌なことばかりじゃなく、子どもたちのいい所も報告し合って明るく元気なまことにしたいです」「見守って注意することしかできないけど、抑止力になればと思います」「青い光が定着してきました。見て、ハツとしてもらえるだけで悪いことはしなくなるはずですよ。この青い光を見ると安心するという高齢者もいます。安全安心を届けられるように活動していきます」

VOICE 03 おやじの会



おやじの会は、北伊予小・中学校のPTAのお父さんの団体です。そのうち13人が、北伊予青パト隊として活動しています。

隊員は、北伊予青パト隊の活動に加え、月2回独自のパトロールを実施しています。負担がかかることと続かないという点で、できる時にできる人がするようにしています。

コメント
「塾で遅く帰る子がいて心配です。自分の子どもだけでなく、地域の子どものために活動できることをうれしく思います」「活動を始めて2年になりますが、たむろしている子どもたちもいないし、徘徊している子どももい

い。本当に平和なまちだなと感じます。この平和が続くように見守り続けたいです」「一人にかかる負担が少ないようにしたいのですが、後継者がいないのが今の課題です」



青パト隊員募集

地域防犯に協力してくれる人を募集しています。安心安全のまちづくりと青少年の健全育成に意欲的な人であれば、資格は問いません。講習会受講後、青パト隊員に認定されます。希望者は、各校区の青パト隊長までご連絡ください。

- 松前校区 村井好明 ☎984-4163
- 北伊予校区 白石浩輔 ☎984-9488
- 岡田校区 足立恒夫 ☎985-0949

まさき安心安全システム

まさき安心安全システムにメールアドレスを登録すると、不審者情報などの防犯情報が配信されます。また、松前町ホームページ上にも情報を掲載しています。

●登録方法
町のホームページから、自分の携帯電話またはパソコンのメールアドレスを登録してください。
町ホームページ
<http://www.town.masaki.ehime.jp/>
→QRコードから直接登録画面にアクセスできます。




見守り

子どもたちの登下校を支える

VOICE

04

松前町交通安全指導員
矢野 正次さん（北黒田）

松前小学校の通学路には、交通量が多く、危険な交差点があります。交通安全指導員歴40年の矢野さんは、毎朝、義農味噌工場前の交差点で、30年に渡り、子どもたちの安全を見守っています。「毎日立ち始めたのは、昭和57年ぐらいだったと思います。この交差点は、とても複雑で危ない。普段は点滅信号なので、思い込み運転で突っ込んでくる車があります。子どもの安全を少しでも守るために私にできることは続けていきたいです」

「信号があつて事故もないのに、



わざわざ立たなくても」と言う声があり、1週間立たない日があったそうです。でも、そこで矢野さんがいることによる安心感の大きさにみんなが気づきました。次の日の交差点にはまた矢野さんの姿。雨の日も、冬の寒い朝も、平日だけでなく、休日参観日や運動会の日も、矢野さんは交差点で見守ってくれています。

自営業の矢野さんは、勤務中でも時間を見つけ、子どもたちの下校時刻には青色回転灯をつけて通学路のパトロールもしています。

「子どもたちが元気よくあいさつをしてくれる。小さかった1年生の子が6年生になるまでの成長を見られる。卒業して中学生になっても、登下校以外でも話しかけてくれる。やりがいがいっぱいです」

VOICE

05

岡田っ子見守り隊
井上 憲二さん（上高柳）

岡田っ子見守り隊員歴5年の井上さん。きっかけは、お孫さんが学校から持ち帰った「見守り隊員募集」の案内でした。以来ほぼ毎日、下校時の子どもたちの安全を見守っています。

「子どもたちの安全が心配だったので、隊員になろうと思いました。1年生が下校する時間に学校に行き、子どもたちと一緒に下校しています。自分で曜日毎にコースを決めて、色々な方面に帰る子どもたちの安全を見守るようにしています。道路にはみ出してないか、道路を渡るときはまわりをよく見ているか、子どもたちに交通规则を身につけてもらえるように気をつけて歩きます。歩いていけると転ぶ子がいたり、田んぼに落ちる子がいたり、アクシデントに備えてティッシュやばんそうこうを持っていきます。転んだ子を心配して声をかけてあげる子や、荷物を持ってあげる友だちの姿を見ると、温かい気持ちになります。『子どものためにごころうさま』と言われることがあるんですが、お礼

を言うのは私です。いつも子どもたちに元気をもらっています。『おじちゃん今日どこ?』『明日は私と一緒に帰って』と言われると、少々しんどくてもまた明日も来ようと思うんですよ。これからも自分のために子どもたちと一緒に下校を続けます」



「道路にはみ出したとき、注意してくれてありがとうございます。うさぎさんでした」

「これからもがんばってください」

「いつも一緒に帰ってくれてありがとうございます」

「いつもみんなを見守ってくれてありがとうございます」

「転んだとき、ばんそうこうをもらいました」

終わりに

全国で相次ぐ痛ましい事件を耳にするたび、いつどこで同じことが起こるか分からないという不安に駆られます。

「何かしなければ」そう思っても、何をすればいいか、できることがあるのかと思うかもしれません。

「自分たちの子どもを自分たちの手で守らなければ」と組織結成に尽力してくれた人たち。パトロールを続けてくれる人や通学路で見守ってくれる人。熱心に活動してくれる皆さんのようには頑張れないと感じたかもしれません。でも、森さんの言葉にあったように、頑張らなくていいんです。「買い物や犬の散歩に出かける時間を下校時に合わせる」「あいさつを交わす」

皆さんの日常生活の中のほんのちよりの時間をいただけませんか。大きくて重たい荷物も、みんなに分ければ軽くなります。

子どもたちを守るこの活動がずっと続くように、みんなで一緒に取り組んでいきましょう。誰かに任せっきりにするのはなく、行政も、地域も、松前町に関わるすべての人が連携して、子どもを守る時代がきています。

